

新聞づくりの部

DV新聞

真庭市・勝山高2年 山田 貴史

(週刊)

DV新聞

製作者
山田貴史

2011年
9月20日
文曜日

増えている逆DV

女性だけが被害者と思われがちのドメスティックバイオレンス(DV)。しかし近年、男性の被害者が増加傾向にあることが様々な調査の結果からわかってきた。背景には、女性の社会的地位の向上や支援体制の不備などが挙げられる。

そもそも「DV」とは？

DVとは配偶者や内縁関係の恋人の間で起こる暴力のことである。身体的暴力だけでなく精神的暴力なども含まれる。近年、DVの増加が社会問題となっている。

男性へのDVの傾向

女性へのDVは身体的暴力が大半を占めるが男性に対しては、身体的暴力も多いため、精神的暴力が多い傾向にある。

内閣府男女共同参画局 調査
「男女間における暴力に関する調査」(調査時期)平成20年10月~11月



内閣府「男女間における暴力に関する調査」(調査時期)平成20年10月~11月

結果 女性の約**33%**、**18%** 被害を経験した。男性の約

内閣府男女共同参画局は、平成20年10月5~11日に調査した男女間における暴力に関する調査の結果を公表した。何らかの暴力を受けた女性で約33%、男性で約18%いたことがわかった。また、さらに関連した調査では、被害者相談したという人が女性で約74%、男性で約84%であった。平成21年に横浜府が調査した配偶者間の暴力で女性被害者が約43%、男性が約42%という結果もあ

DVが多い県(人口10万人当たり)

1. 沖縄県
2. 奈良県
3. 鳥取県
4. 鳥根県
5. 高知県
6. 和歌山県
7. 大阪府
8. 香川県
9. 岩手県
10. 北海道

大阪府を除いて人口の少ない自治体が多い。また、西日本に多い傾向がある。

北海道では男性被害者の一時保護計画

北海道では、二〇〇六年に「男性被害者の一時保護計画」が策定された。これは、男性被害者の増加に対応するため、警察、医療機関、福祉機関などが連携して対応していくことである。

男性へのDV -多い理由-

- 男性として頼りないから、誰にも相談できない。
- 相談しても担当者から心ない言葉をかけられることがある。
- 女性から暴力を受けると、道徳観から無抵抗になりがち。
- 女性へのDVが多いため、報道されにくい。
- 相談できる体制があまり整っていない。

以上のような理由が挙げられるので、早急に対策を考える必要がある。

男性から女性へのDVの方が断然多い

女性へのDVは多いため、男性被害者の保護体制を整える必要がある。また、男性からのDVも少なくないため、女性へのDVと同様に、男性からのDVに対処する必要がある。

男性の被害を減らす対策

男性の被害を減らすためには、警察、医療機関、福祉機関などが連携して対応していくことが重要である。また、男性被害者の心理的ケアも必要である。

主な原因

収入に関する問題、地位を高めようとする心理、社会的な偏見などが原因となっている。